国際学科履修細則

Ⅰ　一般的事項

1　科目履修に関する基本的事項は、学則、国際学部規程、国際学科履修細則、学科共通履修細則、教職課程・学芸員・社会教育主事資格取得に関する規程等に示されている。これらを熟読の上、以下に述べる諸項目や時間割作成の手引き・シラバス等を参考にして、履修科目を決定すること。

2　同一時限に同時に開講されている科目は、重複して履修することができない。

3　授業科目のうちで、A、B、C 等クラスの区別のあるものは、そのいずれか一つを選択し履修すること。ただし、履修する科目によっては、予め受講するクラスを指定する（以下、「受講指定」という。）場合がある。この場合は、原則として、受講指定されたクラスで受講しなければならない。

4　（1）各学期の履修上限単位数は、追手門学院大学履修登録に関する取扱基準に定める。

（2）資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目の単位数については、この制限を受けない。その他、成績評価が「認定」として単位付与される科目についても、この制限を受けない。

5　履修登録を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この手続きをしない場合には、単位を修得することができない。

Ⅱ　学修計画

1　国際学科の学生は、在学中にどのような目標をもって、どのような学修・研究を行うかといったことを、入学時から常に主体的に考えなければならない。そのため、在学中に複数回にわたって、「学修計画書（=以下 STUDY PATHWAYS）」を作成し提出すること。在学中の自身の学びや目標・目的を可視化するためにも、必ず回答すること。提出方法については、「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。

2　学修計画書は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを確認のうえ、次の項目を踏まえて作成すること。

（1）語学力

入学時の英語力を TOEIC® Listening & Reading Test により自ら把握すること。卒業時の目標とする英語運用能力を定め、それを実現させるために、各学年終了時点での目標スコアを定めること。これらを定期的に測定するべく、年に１回以上は、TOEIC 等の検定試験を験すること。グローバルスタディーズ専攻（以下 GS 専攻）は TOEIC７３０以上~~相当~~等、国際文化専攻は TOEIC６００以上~~相当~~等を卒業時の目標とすること。なお、国際学部では TOEIC IP(オンライン受検)テストの受検を義務づけており、

・１年生：入学時、春学期英語授業最終回、秋学期英語授業最終回（GS 専攻のみ留学帰国後）
・２年生：春学期英語授業最終回、秋学期英語授業最終回
・３年生：春学期最終回（オンラインで各自受検、GS 専攻のみ授業内)、
　　秋学期最終回（オンラインで各自で受検）
・４年生：任意

となっており、４年生以外は必ず全員定められた期間内に受検を行うこと。

受検費用は受検者負担となっており、指定された期間に指定された方法で支払いを行うこと。受検や費用に関する案内は「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途周知にて別途指示する。（体調不良や受検忘れ等で受検できなかった場合、受検料の返金はしない。）（International Student は受検を免除）

（2）留学

留学を希望する又はすでに予定している者は、学修計画を立てるうえで、留学する時期を定め、それを実現させるための計画を立てること。グローバルスタディーズ専攻の学生は、最低１回（推奨２回以上）の海外留学が必須である。国際文化専攻の学生は、１回以上の海外留学又は大学が用意する選抜型の留学やフィールドワーク等（コンセントレーションパッケージ（以後 CP）含む）への参加を推奨する。

（3）１年次

４年間の学生生活全体の計画を立て、２年次以降の専門的な学びに備え、学修目標を意識するとともに、高い英語運用力の習得に力を入れること。

（4）２年次

この学年から所属する専攻ごとに専門的な学びが始まる。卒業時に身につけておきたい知識やスキルを再確認し、その実現に必要な科目を履修すること。加えて、３年次からの専門的な演習科目を見据えた学習の準備をすること。3年次及び４年次に所属する「プロジェクト」の分野の選考を意識しつつ履修・学修すること。

（5）３年次

自身の専門分野の知識を深め、様々な体験に主体的に参加し、そこから学びを得ることを意識すること。加えて、国内外でのインターンシップには積極的に参加し、卒業後の進路を意識すること。

（6）４年次

４年間の学びの集大成である卒業研究に取り組み、その成果を公開すること。それを卒業後の進路に結び付けていくこと。

３　学修計画書の様式や提出時期については、「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。

Ⅲ　共通教育科目

共通教育科目は、国際学部規程第１０条第１項に定めるとおり２８単位以上を修得するものとする。なお、共通教育科目は、１年次、２年次において確実に修得することが望まれる。

（1）ファウンデーション科目群

①初年次科目

1）次の科目は、１年次に履修することが望ましい。

「日本語表現」

2）次の科目は、一部の学生を除き１年次に履修することが望ましい。

「数的処理入門」

②外国言語科目

1）外国言語科目（英語）に掲げる科目のうち、次の科目を修得しなければならない。

「総合英語１」

「総合英語２」

「Online English Seminar　1」

「Online English Seminar　2」

2）外国人特別学生、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国言語科目（日本語）から４ 単位以上を修得しなければならない。なお、英語、ドイツ語、フランス語、中国語は自由選択とする。

（2）リベラルアーツ・サイエンス科目群

リベラルアーツ・サイエンス科目群に掲げる科目から、８単位以上を修得しなければならない。

（3）主体的学び科目群

1）次の科目は、１次に履修することが望ましい。

「追手門アイデンティティ」

2）外国人特別学生、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、次の科目を修得しなければならない。

「日本事情　1」

「日本事情　2」

（4）その他の科目は次のとおり定める。

1）別に定める放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合においては、最大４単位までを卒業に必要な共通教育科目の単位として認める。

2）大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位においては、最大４単位までを卒業に必要な共通教育科目の単位として認める。

Ⅳ　学科科目

1　国際学科の開設する学科科目については、国際学部規程第１０条第１項に定めるとおりグローバルスタディーズ専攻一般学生６６単位、グローバルスタディーズ専攻留学生６８単位、国際文化専攻６４単位以上を修得しなければならない。なお、国際学科の学生が卒業に必要な単位の総数は共通教育科目において規定された単位数とあわせて１２４単位以上である。

2　国際学科生は、入学時より国際学部規程第２条３項に定める専攻に所属する。

3　国際学科生は、所属する専攻により、国際学部規程第１１条の（1）もしくは（2）の卒業要件が適用される。

4　国際学科の学科科目は、国際学部規程第９条（別表Ⅰ）に掲げるとおりである。

5　学科科目は一部科目を除き、学科、専攻及び学生の必要に応じて、自由に選択することができる。ただし、科目によっては履修条件のほか、履修者数の制限やクラスを指定することがある。詳細は、履修登録に関するオリエンテーション等の資料を参照すること。

6　国際学科の学科科目は、専攻ごとに共通科目と専攻別科目に分かれる。詳細は以下に定める。

（1）グローバルスタディーズ専攻

グローバルスタディーズ専攻の者は、文化に対する理解を深めるために、原則として、１年次秋季に全員が海外短期語学留学に参加しなければならない。２年次からは際ビジネス、国際開発、多文化マネジメントの３つの体系化された領域を学修し、知識を得て、興味・関心に応じて２回目以降の留学を行う。

①共通科目

共通科目は、専門基礎科目群、フューチャー&イノベーション科目群、専門関連科目群、専門演習科目群区分され、次の区分に掲げる科目から所定の単位数以上を修得しなければならない。

1）専門基礎科目群

イ）専門基礎科目群は、掲げる科目の中からグローバルスタディーズ専攻は２２単位以上を修得しなければならない。ただし、以下の要件を満たすものは「English for Career Development１～５」の履修を免除し、単位認定を行うことができる。(授業への参加を希望する者はそれを妨げるものではない。)

検定試験名称	GS 専攻	国際文化	有効期限	単位認定
TOEIC　Listening & Reading Test	７３０以上	６００以上	スコア開示後２年	未修得単位分を一括認定（GS 専攻：最大１０単位、国際文化専攻：最大８単位）
TOEIC　Speaking & Writing Test	３１０以上	２４０以上	スコア開示後２年	
TOEFL iBT	７２以上	４２以上	受験日から２年	
IELTS	５．５以上	４．０以上	受験日から２年	
実用英語技能検定	１級	準１級	無し	

※TOEIC IP（オンライン）テストは不可※

※有効期限は各検定試験が定める期限に準じる※

上記試験結果は、必ず OI サポまたは教務課窓口に届け出ること。

申請期間は両学期の授業最終日までとする。

ロ）次の科目は必修とし、原則として、履修する学年次及び対象者、並びにクラスを学部が指定する。

A．１年次に履修する科目

「English Communication１・２」

「English for Career Development１・２ 」

B．２年次に履修する科目

「English for Career Development３・４」

「Specialized Studies in English１・２」

C．３年次に履修する科目

「English for Career Development５」（GS 専攻のみ）

ハ）それぞれの科目は以下の目的で授業を行う。

・「English Communication１・２」は、英語をコミュニケーションツールとして使用するための基礎力をつけることを目的とし、授業内の活動を通じて「聞く・話す・読む・書く」の英語 4 技能を身に付ける。

・「English for Career Development１～５」は、TOEIC の点数アップを目的とし、卒業時の目標である TOEIC スコア７３０を目指す。TOEIC は６００点以上で履歴書に記載できるスコアと言われており、英語を使う職種では最低で「７３０点以上」が求められる。GS 専攻では、この英語を使う職種での就職も視野に入れられるようカリキュラム上で TOEIC のスコアアップをサポートする。

・「Specialized Studies in English１・２」は、教員の専門性に近いトピック（≒研究テーマ）を通して、「聞く・話す・読む・書く」の英語 4 技能の向上を目指し、授業を通して批判的思考力を養う。授業は主に英語で行われ、英語と日本語の割合はクラスによって異なる。
クラス分け方法は担当教員により決定し、アンケート実施の場合は「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。希望調査期間はプロジェクトと同時期あるいは１月に行う。

2）専門関連科目群

イ）専門関連科目群は、留学・フィールドワーク科目区分され、留学・フィールドワーク科目は８単位以上（学部が指定した International Student は４単位以上）、修得しなければならない。

ロ）GS 専攻に所属する者は、原則として、在学中に本学部が提供する留学プログラムでの留学を１回以上は経験するものとし、同単位を修得しなければならない。
次の科目は、１年次に全員が履修する科目とし、１年次において単位を修得することが望まれる。
「留学特別演習１」：留学に行く前に目的や手続き面を確認する事前演習科目
「留学特別演習２」：留学後の学びを体系化し、定着化させる事後演習科目
「国際体験Ⅰ」：留学中の学び、または国内での集中講義を認定する科目

ハ）Technology Ethics & Digital Communication１・２は、１年次の必修科目で学修に必要な基本的な PC 操作や LMS(Learning Management System)の使用方法等を身に付け、AI 時代に即したデジタルコミュニケーションの基礎スキルを学ぶ。

3）専門演習科目群

イ）専門演習科目群は、１６単位以上を修得しなければならない。

ロ）次の科目は、原則として、履修する学年次及び対象者、並びにクラスを学部が指定する。

A．１年次に履修する科目

「Global Studies１」

「Global Studies２」

B．２年次に履修する科目

「Global Studies３」

「Global Studies４」

C．３年次に履修する科目

「プロジェクト１」

「プロジェクト２」

D．４年次に履修する科目

「プロジェクト３」

「プロジェクト４」

ハ）Global Studies１・２は、大学での学びに必要な基礎的知識と技能を修得し、プレゼンテーシ

ョンスキル・レポート作成スキルを養う。希望調査は行わず、クラス分けは学部の判断にて行う。

二）Global　Studies３・４は、「国際ビジネス」「国際開発」「多文化マネジメント」の３分野の内、春学期・秋学期に１分野ずつを選択する。クラス分け方法は担当教員により決定し、アンケート実施の場合は「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。希望調査期間はプロジェクトと同時期あるいは１月に行う。

ホ）プロジェクト１～４では、担当教員の専門領域に関する基礎知識を身に付けるとともに、自身で研究テーマを設定し、当該テーマについてリサーチを行い、その成果を最終発表としてまとめる。プロジェクト１・２およびプロジェクト３・４は同一教員による指導を行い、学期途中での変更は認められないため、熟慮して選択すること。希望調査期間は毎年 11 月末～12 月中を予定しており、「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。

②専門科目

専門科目は、フューチャー&イノベーションスタディーズ科目群及び留学生科目群に区分され、次の区分に掲げる科目から所定の単位数以上を修得しなければならない。~~専攻別~~専門科目は、専門分野の知識を深めることと様々な体験を積むうえでの基幹となることから、２年次から３年次において、確実に修得することが望まれる。

１）フューチャー&イノベーションスタディーズ科目群

イ）フューチャー&イノベーションスタディーズ科目群は、グローバルビジネス科目、国際開発学科目、グローバル言語科目の３つに区分され、それぞれの区分の専門基幹科目から４単位以上、同専門展開科目から２単位以上の合計１８単位以上を修得しなければならない。

２）留学生科目

イ）学部が指定した外国人留学生は、留学生科目群に掲げる全ての日本語科目を履修し、８単位以上を修得しなければならない。

ロ）次の科目は、原則として、学部が履修する学年次を指定する。

Ａ．１年次に履修する科目

「日本語演習１」

「日本語演習２」

Ｂ．２年次に履修する科目

「ビジネス日本語１」

「ビジネス日本語２」

（2）国際文化専攻

国際文化専攻の者は、１年次及び２年次は英語力の向上を目的に、集中的に英語学習を行う。２年次からは、国際・地域文化関係、国際・地域交流関係、国際・地域言語表現の３つの体系化された領域を学修し、知識を得る。加えて、異文化に対する理解を深めるため、海外語学留学やフィールドワークへの参加が強く推奨される。海外語学留学を希望する者については、その機会が与えられる。

①　共通科目

共通科目は、専門基礎科目群、グローバルリベラルアーツ科目群、専門関連科目群、専門演習科目群に区分され、次の区分に掲げる科目から所定の単位数以上を修得しなければならない。

１）専門基礎科目群

イ）専門基礎科目群は、掲げる科目の中から２０単位以上を修得しなければならない。

ロ）次の科目は必修とし、原則として、学部が履修する学年次及び対象者、並びにクラスを指定する。ただし、以下の要件を満たすものは「English for Career Development１～４」の履修を免除し、単位認定を行うことができる。（授業への参加を希望する者はそれを妨げるものではない。）

検定試験名称	GS 専攻	国際文化	有効期限	単位認定

TOEIC　Listening & Reading Test	７３０以上	６００以上	スコア開示後２年	未修得単位分を一括認定 （GS 専攻：最大１０単位、 国際文化専攻：最大８単位）
TOEIC　Speaking & Writing Test	３１０以上	２４０以上	スコア開示後２年	
TOEFL iBT	７２以上	４２以上	受験日から２年	
IELTS	５．５以上	４．０以上	受験日から２年	
実用英語技能検定	１級	準１級	無し	

※TOEIC IP（オンライン）テストは不可※

※有効期限は各検定試験が定める期限に準じる※

上記試験結果は、必ず OI サポまたは窓口にて教務課に届け出ること。
申請期間は両学期の授業最終日までとする。

Ａ．１年次に履修する科目
「English Communication１・２」
「English for Career Development１・２ 」
Ｂ．２年次に履修する科目
「English for Career Development３・４」
「Specialized Studies in English１・２」

ハ）それぞれの科目は以下の目的で授業を行う。

・「English Communication１・２」は、英語をコミュニケーションツールとして使用するための基礎力をつけることを目的とし、授業内の活動を通じて「聞く・話す・読む・書く」の英語 4 技能を身に付ける。

・「English for Career Development１～５」は、TOEIC の点数アップを目的とし、卒業時の目標である TOEIC スコア６００を目指す。TOEIC は６００点以上で履歴書に記載できるスコアと言われており、国際文化専攻では、この英語を使う可能性がある職種での就職も視野に入れられるようカリキュラム上で TOEIC のスコアアップをサポートする。

・「Specialized Studies in English１・２」は、教員の専門性に近いトピック（≒研究テーマ）を通して、「聞く・話す・読む・書く」の英語 4 技能の向上を目指し、授業を通して批判的思考力を養う。授業は主に英語で行われ、英語と日本語の割合はクラスによって異なる。
クラス分け方法は担当教員により決定し、アンケート実施の場合は「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。希望調査期間はプロジェクトと同時期あるいは１月に行う。

２）専門関連科目群

イ）学・フィールドワーク科目の詳細は、Ｖ留学に定める。

ロ）Technology Ethics & Digital Communication１・２は、1 年次の必修科目で学修に必要な基本的な PC 操作や LMS(Learning Management System)の使用方法等を身に付け、AI 時代に即したデジタルコミュニケーションの基礎スキルを学ぶ。

３）専門演習科目群

イ）専門演習科目群は、１６単位以上を修得しなければならない。

ロ）次の科目は、原則として、履修する学年次や及び対象者、並びにクラスを学部が指定する。

Ａ．１年次に履修する科目
「Global Studies１」
「Global Studies２」
Ｂ．２年次に履修する科目
「Global Studies３」
「Global Studies４」
Ｃ．３年次に履修する科目
「プロジェクト１」

「プロジェクト２」

D．４年次に履修する科目

「プロジェクト３」

「プロジェクト４」

ハ）Global　Studies１・２は、大学での学びに必要な基礎的知識と技能を修得し、プレゼンテーションスキル・レポート作成スキルを養う。希望調査は行わず、クラス分けは学部の判断にて行う。

二）Global　Studies３・４は、「国際ビジネス」「国際開発」「多文化マネジメント」の３分野の内、春学期・秋学期に１分野ずつを選択する。クラス分け方法は担当教員により決定し、アンケート実施の場合は「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。希望調査期間はプロジェクトと同時期あるいは１月に行う。

ホ）プロジェクト１～４では、担当教員の専門領域に関する基礎知識を身に付けるとともに、自身で研究テーマを設定し、当該テーマについてリサーチを行い、その成果を最終発表としてまとめる。プロジェクト１・２およびプロジェクト３・４は同一教員による指導を行い、学期途中での変更は認められないため、熟慮して選択すること。希望調査期間は毎年 11 月末～12 月中を予定しており、「期間」や「方法」等については「授業内」「OIDAI アプリ」「LMS」にて別途指示する。

②専門科目

専門科目として、グローバルリベラルアーツ科目群があり、次の区分に掲げる科目から所定の単位数以上を修得しなければならない。専攻別科目は、専門分野の知識を深めることと様々な体験を積むうえでの基幹となることから、２年次から３年次において、確実に修得することが望まれる。

イ）グローバルリベラルアーツ科目群は、専門基幹科目、専門展開科目、特殊講義科目、関連科の４つに区分され、各区分から所定の単位数として

専門基幹科目から４単位以上、

専門展開科目から４単位以上、

特殊講義科目から８単位以上、

関連科目から１２単位以上の合計２８単位以上を修得しなければならない。

V　留学・フィールドワーク

１．国際学科の留学とは、所属する専攻ごとに、次のプログラムのことをいう。

・１年次秋期海外短期語学留学（GS 専攻のみ）

・CP

国際ビジネスプログラム

国際開発プログラム

多文化マネジメントプログラム

・ハワイ大学 NICE プログラム

・ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ留学（ダブルディグリー）プログラム

・海外 TOP 大学留学

ペンシルバニア大学

カリフォルニア大学バークレー校

アメリカン大学

メルボルン大学

・派遣交換留学

２．留学・フィールドワーク科目による単位認定は以下の通りとする。

・GS 専攻１年次秋季海外短期語学留学

留学特別演習１（半期／２単位）

留学特別演習２（半期／２単位／集中講義）

国際体験１（認定／４単位／渡航１か月）

・CP

留学特別演習３（通年／2 単位）

留学特別演習４（通年／2 単位／２回目参加学生用）

国際体験２（認定／４単位／渡航１か月）

国際体験３（認定／４単位／渡航１か月／２回目参加学生用）

国際体験４（認定／２単位／渡航１～２週間）

国際体験５（認定／２単位／渡航１～２週間／２回目参加学生用）

・ハワイ大学 NICE プログラム

国際体験１（認定／４単位／渡航１か月）

・ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ留学（ダブルディグリー）プログラム

国際研究演習１（認定／１０単位／半期のみの場合）

異文化交流１（認定／１０単位／半期のみの場合）

国際研究演習２（認定／１０単位／通期の場合）

異文化交流２（認定／１０単位／通期の場合）

・海外 TOP 大学留学

国際研究演習１（認定／１０単位／半期）

異文化交流１（認定／１０単位／半期）

・派遣交換留学

国際事情（認定／４単位／半期）

国際表現演習（認定／４単位／半期）

国際コミュニケーション論（認定／４単位／半期）

国際特別演習（認定／４単位／半期）

３．留学並びにフィールドワークは、海外渡航した現地で行う。これに関する認定科目は、履修単位制限に含まない。ただし、大学が認めた留学生専用科目は除く。なお、単位認定は翌学期末に行う。留学先での修得科目を本学科目に読み替え希望する場合は、留学終了後１ヶ月以内に「OI サポ」または「教務課」に申し出ること。なお、その際は、留学先での「成績証明書・シラバス・時間割」を必ず提出すること。また、帰国後１か月以内に TOEIC を受検し、結果を教務課または担当教員まで知らせること。

（1 ヶ月以内の提出が難しい場合はその旨申し出ること。）各プログラムの履修条件、及び学部が指定した外国人留学生の留学・フィールドワーク科目の履修に

に関する詳細は、別に定める。

Ⅵ　日本語教師養成プログラム

国際学科に所属する者は、文学部人文学科が設置する日本語教師養成プログラムを履修することができる。

１　同プログラムで修得した単位は、卒業に必要な単位数に加算する。

２　このプログラムの詳細は、文学部人文学科履修細則に定める。

附　則

この細則は、２０２６年４月１日から施行する。